

フィールドワーク としての エスノグラフィ

調査者自身が
現場に飲み込まれていく中での研究

伊地知紀子さん

現地の生活に入り込む

- 地元の方々の生活の中に入り込んで、統計や文字化された歴史に寄らない研究を行う。
- おおよそ数字に換算できないような感情領域の話を感じ取り、読み解き、言語化していく作業。
- 研究者自身の立場が鋭く問われる場面も。

意識的に相手に自分を知ってもらおう

- 私の場合：相手を特に調査対象として捉えていない。

私の経験

- ・なぜ反基地運動があるのか？という疑問からスタート。
 - ・なぜ反対しているのか。
 - ・基地の周辺に住むとはどういうこと？
- ☞ 大分県湯布院町という自衛隊基地のある町に4年以上住んだ。

具体的に、運動する人の話だけでなく、
目立った運動をしていない人たちが
基地があることをどう思っているのか、
話を聞きたかった。

突然、訪ねて行き、本音を話してもらえ
とは思えないし、さらけ出した表情を見せ
てくれるとは思えない。



・農作業を一緒にする

・バイトをしながら会話の回数・会話できる
人を増やす

👉 関係性を紡ぐということ





私的なことも話してもらえそうな

関係性を築いていく中で、

彼/彼女たちの心の中に

基地がどのようにしてあるのか、

伺い知ることができるようになった。

「賛成派」が何人、

「反対派」が何人、

という数字に換算できない

人・気持ち・思いが

地域にはたくさんある。

表に出てくる言葉だけではなく、
本人自身もことばにならないような
感情領域の思いや気持ちを
どのように研究という形で
アプローチしていくことができるのか。

「調査に役立つかどうか」

という一つの物差しで、

この営みを見た時、

圧倒的に無駄が多い。

その行為が、そこで暮らし続ける
人たちにとって、迷惑とならないか、
最も配慮すべき点。

具体的に運動をしている人たちとの関係

- 多くの運動団体が、国家権力や地域の権力と対峙、もしくは直面するなかで運動を展開している。
- 彼/彼女たちは、運動家であり、生活者。
- 彼/彼女たちの主張に関してはよく話をしてくれる。☞ 私の考えを問われることになる。

具体的行動をしていない人たちとの 関係

- その地域で暮らしにくくならないか、最も配慮すべき。
 - 名前を出すこと
 - その人の事を論文に書いていいのか
 - どのように書くか
-
- 発表前に読んでもらい、了解をもらうこと

* 注意 *

最終的に「調査・研究」という名前がつく行為を行うならば、それを書いたり・表現したりする行為が伴う。

歴史を活性化していくような作業

- ・一見、調査者は「話を伺う」という受け身に徹するようにみえるかもしれない。

しかし、質問をし、彼/彼女たちの頭の中から
当時を想起してもらい、再度言葉にしていく営
みは、調査者自身が、過去とされてきた歴史
に関与し、今、という現在において、否応なく、
その歴史を活性化してしまうような重層的な
営みでもある、と言えないだろうか？

短期間の滞在を繰り返し、長期にわたる調査を行う

- 現地に住むことはしないが、第一の目的は話を聞きたい、または参与したい対象との関係性の生成。
- 話してもらえる関係をいかにして築いていくか。

WOMEN
IN
BLACK
OPPOSE
MILITARISM
AND
WAR

WOMEN IN BLACK FOR PEACE
AND
NON-VIOLENCE - OPPOSE MILITARISM
AND WAR

LET'S GO
TO THE
MILITARY BUDGET HEARING
ON 11/11/04
WOMEN IN BLACK FOR PEACE
AND NON-VIOLENCE

OPPOSE
MILITARISM
AND
WAR

LET'S GO
TO THE
MILITARY BUDGET
HEARING
ON 11/11/04
WOMEN IN BLACK
FOR PEACE
AND NON-VIOLENCE

短期間での調査

- その土地の歴史的変遷(人口・予算・公共政策・人の動き)などを辿る場合: 役場への訪問
- 字史を読み解く
- 住民の方々へのインタビュー
- 青年会・消防団・商工会・料飲店組合などへのインタビュー

関連書籍

- 『実践のエスノグラフィ』2001年 金子書房
- 『エスノグラフィ入門』2010年 春秋社
- 『フィールドワークの技法と実際』1999年 ミネルヴァ書房
- 『死者たちの戦後誌：沖縄戦跡をめぐる人びとの記憶』2009年 御茶の水書房
- 『エスノグラフィ・ガイドブック』2002年 嵯峨野書院

阪大図書館にはないが・・・

- 『調査されるという迷惑』

宮本常一・安溪遊地 著 2008年 みずのわ出版